

## 増補 TOEIC®で 920 点を取った医師の英語勉強法

はじめに .....	5
1 本書の目的 .....	6
2 英語と日本語は〇〇〇〇である .....	8
2.1. 英語は日本語とは〇〇である .....	8
2.2. 〇〇をしてはいけない .....	8
2.3. 〇〇をしてはいけない 2 .....	10
2.4. 〇〇をしてはいけない 3 ---単語以外の例 .....	11
2.5. 英語脳について .....	15
2.6. 英語脳について 2 .....	18
3 英語脳を身に付ける方法 .....	22
3.1. 〇〇は捨て、〇〇だけを使う .....	22
3.2. 参考書の〇〇〇〇について .....	23
3.3. 〇〇を使ってもよい例外 .....	25
3.4. 〇〇の使い方 .....	28
3.5. 英語の「記憶保持」を高める練習 .....	31
4 まず音から入れ I .....	34
4.1. 日本語と英語の音の違い .....	34
4.2. なぜ日本人には特にリスニングが難しいのか .....	36
4.3. 音を知る方法 .....	37
5 まず音から入れ II (〇〇編) .....	38
5.1. まず〇〇を覚える事から .....	38
5.2. 〇〇から〇〇、次に〇〇での練習へ .....	38
5.3. 練習の時間的な目安 .....	40
5.4. 〇〇は基本でしかない .....	41
5.5. 英語の「基本練習」の仕方 .....	42
6 まず音から入れ III (実践練習編) .....	44
6.1. 〇〇を用いた実践練習 .....	44
6.2. 音読の方法 .....	46
6.3. 発音記号が複数ある場合や音声変化がある場合 .....	46
6.4. WEB を利用した効率的な方法 .....	48
6.5. いつまでやればいいのか .....	49
6.6. スペルについてもう少し .....	51
7 発音上達法 .....	53

7.1. 発音やリスニング学習のコツをしろ	53
7.2. 母音の子音につけてしまう癖を直す方法	53
7.3. ○○をする	54
7.4. ○○をする	55
7.5. 音の連結について	55
7.6. 発音記号通り発音されない場合	57
7.7. RとLについて 1	60
7.8. RとLについて 2	60
7.9. RとLについて 3	61
7.10. シラブルも大切	63
7.11. あいまい母音について	64
7.12. [a]と[ɔ]の違いについて	66
7.13. 二重母音は「二つの母音」ではない	67
7.14. とにかく子音が大切	68
7.15. フラッシュカード練習法	69
7.16. 自分の声を録音する	69
7.17. 上級者用表現レベルアップ法	70
7.18. おすすめ発音参考書	72
<b>8 無料でテキストと音声を手に入れよう</b>	<b>74</b>
8.1. インターネットを利用しよう	74
8.2. 無料テキスト利用の注意点	76
<b>9 まず音から入れ IV (多聴リスニング編)</b>	<b>78</b>
9.1. 「多聴」の段階へ	78
9.2. 多聴リスニングの目的	78
<b>10 英語は勉強しろ</b>	<b>80</b>
10.1. 母語も勉強して覚えてきた	80
10.2. 大人はどうすればいいか	83
10.3. 大人になってからバイリンガルになった人の例	84
<b>11 具体的な勉強法</b>	<b>88</b>
11.1. イディオム学習法	88
11.2. リーディング学習法	89
11.3. 文法学習法	91
11.4. ライティング学習法	97
11.5. 単語の覚え方	99

<b>12 英語もいろいろ</b> .....	103
12.1. 地域によって英語は全然違う .....	103
12.2. ネイティブ同士でも通じない .....	104
12.3. 各国の英語の特徴 .....	107
12.4. 教養によってネイティブもいろいろ .....	110
<b>13 カタカナ語と和製英語</b> .....	113
13.1. カタカナ語は百害あって一利なし .....	113
13.2. 街でみる和製英語に注意 .....	114
<b>14 スラングについて</b> .....	118
14.1. アメリカ英語の基本的なスラングは覚えよう .....	118
14.2. スラングを学べるサイト .....	119
<b>15 生の英語への接し方</b> .....	123
15.1. 色々な素材を使おう .....	123
15.2. ○○○○ .....	123
15.3. ○○○○ .....	123
15.4. ○○○○ .....	124
15.5. ○○○○ .....	125
15.6. ○○○○ .....	126
15.7. ○○○○ .....	126
15.8. ○○○○などを見る .....	126
15.9. ○○○○ .....	127
<b>16 英会話学校について</b> .....	128
16.1. 利用の仕方を間違えないこと .....	128
<b>17 休む事について</b> .....	130
17.1. 休むことも大切 .....	130
17.2. 科学的な休む事の意味 .....	130
<b>18 会話について</b> .....	133
18.1. ネイティブの会話に入れられない原因 .....	133
18.2. 会話に参加できないもうひとつの理由 .....	135
18.3. 基本会話は○○である .....	136
<b>19 英語学習者用 WEB サイト</b> .....	140
19.1. インターネットを最大限利用しよう .....	140
<b>20 TOEIC®での点の取り方</b> .....	141
20.1. TOEIC は英語力全体を表すわけではない .....	141
20.2. とにかく類似問題をこなす .....	142

12.3.	〇〇〇〇問題は何度もやる	142
12.4.	リスニングの時の〇〇〇を有効に使う	143
12.5.	長文リーディングでは〇〇〇〇〇	143
<b>21</b>	<b>英語圏の価値観を知る</b>	<b>145</b>
21.1.	文化摩擦をなくそう	145
21.2.	閉鎖系社会と開放系社会	146
21.3.	上下関係、formal と informal	147
21.4.	英語圏の文化理解の参考になる書籍	149
21.5.	アメリカだって「変な国」	150
21.6.	「価値観の違い」をもう少し哲学的に	151
<b>22</b>	<b>英語学習に役立つソフトウェア</b>	<b>154</b>
22.1.	フリーソフトを有効利用しよう	154
22.2.	いわゆる「速聴き」について	155
22.3.	速聴き関連ソフト	156
<b>23</b>	<b>その他のアドバイス、補足</b>	<b>159</b>
23.1.	初～中級者用:英会話で困らないための基本表現	159
23.2.	辞書を持ち歩こう	161
23.3.	会話の途中で〇〇〇を言おう	161
23.4.	同じ練習文を繰り返そう	163
	終わりに	165
	付1) 勉強法のまとめ(大きなポイントのみ)	166
	付2) 勉強法に関する質問と答え	167
	付3) 1日の勉強計画例	176
	付4) ネイティブ講師による日本人英語クリニック	177

TOEIC® is the registered trademark of Educational Testing Service (ETS).

## はじめに

嬉しい事に「TOEIC®で 920 点を取った医師の英語勉強法」は大変な好評を博しています。本書が役に立ったという知らせを聞くのは本当に嬉しく、著者冥利に尽きます。また一般の読者だけではなく、英語教育関係者の人からも好意的な評価を頂きました。特に「UDA 式」の UDA 氏には「30音でマスターする英会話 ( <http://www.uda30.com> ) 」から私の WEB サイト ( <http://www.drteruki.com> ) にリンクを頂き、また個人的にもアドバイスや応援の言葉を頂きました。「30音」の WEB サイトと UDA 氏の著作との出会いが私の英語を変えたといっても過言ではなく、その UDA 氏から評価を頂いた事はこの上ない喜びでした。この場を借りてお礼申し上げます。

そのような中、様々な英語に関する質問や本の内容に関する質問を受けました。受けた質問はできるだけ返事をしましたが、しばらく経って、受ける質問の内容が似通っている事に気付きました。また、後になって、もっと書いておきたかったと思う事や、言葉足らずだったと思う事もたくさん出てきました。そこで大幅に「TOEIC®で 920 点を取った医師の英語勉強法」に加筆修正を加える事にしました。今までの内容に加え、今回はやや「参考書」的な要素も加える事としました。

思い返せば前著の執筆に至った動機は、あまりにたくさんの英語学習法が巷にあふれており、そのほとんどが少なくとも私の目から見ると「間違っている」という現状にうんざりしたからでした。残念ながら現在も状況はほとんど変わっていません。この本を読んだ皆様にはそのような情報に惑わされず、しっかりと効率よく英語を習得してもらいたいと思います。

## 1 本書の目的

「英語を身に付けたい」「英会話ができるようになりたい」と言う人はたくさんいます。

しかし、一概に英語を身に付ける、と言ってもいろいろあります。例えばネイティブ・スピーカーに道で声をかけられたときに簡単な日常会話ができればいいのか、旅行の時困らなければいいのか、それとも英語の会議に積極的に参加できるようになりたいのか、はたまた論文を書けるようになりたいのか。アメリカ英語かイギリス英語かそれともオーストラリア英語か。それとも会社で要求されるので TOEIC®で点さえ取れたらいいのか。

本書では、基本的には北米で使われている英語を習得する事を目指します。ここで言う「習得」とは、「外国語である」ということを意識せずに英語を使えるレベルです。これには、会話やリスニングだけでなく、読み、書き、発音、一般教養なども含めます。最終的には日本語を扱うのと同じように英語を扱えるようになる事が目的です。

私は本書で述べるような勉強方法を開始してから英語力が飛躍的に伸びました。約3年前に試しに TOEIC®を受けて見たら 920 点。この点数を高いと見るか低いと見るかはそれぞれだと思いますが、その後も私の英語力は伸び続け、現在(2005年4月)はネイティブに「君の英語はネイティブと同等」と言われるまでになりました。

外国語習得に関しては科学的に一番効果が高いと証明されているものはありませんので、私の方法も絶対正しいと言う事はできません。しかし、単なる体験論ではなく、できるだけ論理的に考えて編み出した方法ですので、読み終えたら納得していただけたらと思います。

これから詳しく英語勉強法について述べていきますが、新しい言語を習得するのは新しい自分を発見する旅でもあり、なかなか exciting なものです。もちろん、新しい言語の習得は一朝一夕にはできませんが、この exciting な経験を是非楽しんで下さい。

